

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25862181

研究課題名(和文)在宅重症心身障害児と母親および父親の睡眠の実態と育児ストレスに関する研究

研究課題名(英文)A research on the reality of the sleep of children with severe disabilities at home, mothers and fathers and child-care stress

研究代表者

芳賀 亜紀子(HAGA, Akiko)

信州大学・学術研究院保健学系・講師

研究者番号：10436892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：在宅で過ごす重症心身障害児とその養育者である母親および父親の睡眠の実態と育児ストレスについて、健常児を養育する場合と比較検討を行い、重症心身障害児を育てる母親および父親への支援内容を検討する資料を得た。

主な養育者は健常児と重症心身障害児ともに母親であり、アクチウオッチを用いた睡眠の実態では、睡眠を中断する事由の有無に影響を受けていた。母親の睡眠を確保するための対応が課題である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine what sorts of support are appropriate for the mothers and fathers who care for their children with severe disabilities at home. Children with severe disabilities and healthy children were compared about the reality of the sleep and child-care stress.

Mothers do most child-care by children with severe disabilities by healthy children, too. The reality of the sleep of mothers was affected in "stop" (using by Actiwatch). Problems are the plan for which mother's sleep is secured.

研究分野：母性看護・助産学

キーワード：重症心身障害児 育児 育児ストレス 母親 父親

1. 研究開始当初の背景

近年、医学の進歩により診断・治療技術が進み、救命され障害を残さず健康になる子どもがいる一方で、ノーマライゼーションの理念に沿い、重度の障害を持ち医療依存度が高い障害児が自宅で生活する割合が増加しており、その支援は重要な課題となっている。

児童福祉法の規定により「重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童」とされている重症心身障害児は、全国で推計38,000人であり、そのうち約7割の約25,000人が在宅で生活している状況にある(日本重症児福祉協会,2008)。さらに約半数が、家族だけに支えられている実態がある。

特に、在宅重症心身障害児の主たる養育者の約9割を占めている母親(厚生労働省「平成18年身体障害児・者等実態調査」)は、医療ケア提供を含む育児のほか、家事など昼夜問わずに多くの役割を担っている。なかでも、夜間の人工呼吸器管理や吸引などの医療ケアは、母親自身の生活、特に睡眠への影響を及ぼしていると推測される。父親も仕事に加え、夜間の医療ケアへの協力や母親のサポートは同様に、睡眠への影響が大きいものと推測される。しかし、重症心身障害児を育てる両親の生活や睡眠についての報告はほとんど見当たらない。

また、重症心身障害児の夜間の医療ケアは、必要とはいえ児の睡眠行動の中断ともいえる。重症心身障害児の睡眠の実態についてはこれまでほとんど明らかとはなっていない。

さらに、重症心身障害児の育児においては、発達に対する見通しを持ちにくいことから、精神的な負担や経済的不安も大きい。

以上より、身体的負担が大きく、精神的にも不安定ななかでの重症心身障害児の子育ては多様のストレスがあるといえる。

2. 研究の目的

本研究は、在宅で生活する重症心身障害児と母親および父親の睡眠の実態と育児ストレスについて明らかにし、健常児を育てる場合と比較検討を行い、重症心身障害児を育てる母親および父親への支援内容を検討する資料を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 健常児と母親の睡眠の実態と育児ストレス状況

対象

健康・発育状態に問題のない保育園児と母親20組

調査内容

睡眠の実態を、アクチウォッチ(フィリップス・レスピロニクス)と行動調査票を用いて調査した。アクチウォッチは被験者の手首あるいは足首に装着する腕時計式の装置であり、体動レベルとその頻度に対応した信号を記録することで身体活動の覚醒-睡眠を分析することができる器械である。

母親には就寝前と起床後の疲労感について自覚症しらべ(日本産業衛生学会産業疲労研究会,2002.)を用い、育児ストレスは日本版PSI尺度(兼松百合子他・PSI育児ストレスインデックス.雇用問題研究会,2006.)を用いて調査した。また、母子共に就寝前と起床後のストレス度を唾液アミラーゼモニター(NIPRO(株))を用いて測定した。唾液アミラーゼモニターは、唾液中に含まれるアミラーゼ活性(SAA)を測定する器械であり、簡易に非侵襲的にストレス評価ができるものである。

育児の実態については母親に質問紙調査を行った。

(2) 在宅重症心身障害児と母親および父親の睡眠の実態と育児ストレス状況

在宅で重症心身障害児を育てる3組の母親および父親の障害受容と養育の思い

在宅で重症心身障害児を育てる3組の母親および父親の障害受容と養育の思いについて半構成的面接を実施した。面接時間は1人1回、60~90分であった。研究参加者の承諾を得た上で、ICレコーダーに録音した。その結果をもとに調査へ進んだ。

睡眠の実態と育児ストレス

の同対象者に調査を実施した。調査内容は(1)の健常児とその養育者を対象とした調査と同様であった。

(3) 分析

調査内容(1)および(2)については単純集計およびt検定、Spearmanの順位相関係数を用いた。有意水準を5%未満とした。解析ソフトはIBM SPSS21を使用した。

調査内容(2)については録音した面接内容について、逐語録を作成し、インタビュー内容から母親および父親の障害受容や養育に対する思いに関する文脈を抽出した。抽出した文章を類似性や関連性に基づいて分類した。カテゴリーとする際、サブカテゴリーの関連性は時間の経過に沿った両親の思いを考慮した。

(4) 倫理的配慮

所属施設の倫理委員会の承認後に実施した。調査対象の母親および父親、また保育園児については代諾者として保護者に研究の概要、研究は任意参加であり、研究の中断の権利、結果の公表には個人が特定できる情報は記載しないこと等について文書および口頭で説明し、文書による同意を得てから実施した。使用する器械は安全性が確認されている。

4. 研究成果

(1) 健常児と母親の睡眠の実態と育児ストレス状況

対象の背景

母親の年齢 35.1 ± 4.8 歳、児は 2.7 ± 1.3 (最小1~最大6)歳であった。全ての母親は就業しており、家族構成は全て核家族であった。主な育児者は全員が自分自身である母

親と答え、支援者は夫である父親が9割であった。

睡眠の実態と育児ストレス

睡眠の実態は、母親の総睡眠時間は7時間6分±54分、児は9時間2分±48分で、持続睡眠時間は、母親は5時間47分±1時間15分、児は7時間1分±2時間1分であった。睡眠の中断は母親12人(60%)、児12人(60%)に認め、母児共に睡眠中断の有無で睡眠時間に有意差がみられた($p<0.01$)。行動調査票より、母親は早寝早起きをすることや睡眠を中断することで自分の時間を捻出していた。母親の睡眠に影響を及ぼす要因は子どもの年齢や人数より、睡眠の中断であった。

疲労感とストレス度は、母児共に就寝前から起床後へ減少傾向にあり、睡眠により疲労感やストレス度は改善されていた。子どもの年齢や人数に関わらず、睡眠の確保によりストレスの改善が認められていた。

育児ストレス尺度PSI得点は、総得点168.2±32.7点、子どもの特徴に関するストレス得点は73.4±18.3点、親自身に関するストレス得点は94.9±18.9点であった。睡眠の中断の有無で差は認めなかった。育児ストレス尺度PSI得点と持続睡眠時間との間に相関関係は認めなかった($r = -0.182$, $p = 0.44$)。 (2)在宅重症心身障害児と母親および父親の睡眠の実態と育児ストレス状況

在宅で重症心身障害児を育てる3組の母親および父親を対象に障害受容と養育の思い

対象の背景は、年齢は母親は30~40代、父親は20~50代であった。職業は、1名の母親のみ専業主婦であった。障害児の年齢は5~10歳で2人が低酸素性虚血性脳症、1人は小脳脳幹低形成であり、共に出生時から神経学的後遺症を残すと診断予測され、告知されていた。主な養育者は、母親であると全参加者が回答した。

母親の思いは【わが子への様々な思いのなか、先の見えない世界の中で不安や孤独と闘っていた】【わが子に向き合い、四六時中母親としてできる精一杯のことをやってきた】【通所や通学により子どもにも自分にも新たな世界が広がった】【子どもの成長を通して、母親として成長したと感じる】【将来のことを考えると安心できない】の5カテゴリーが抽出された。

父親の思いは【わが子への様々な思いのなか、先の見えない世界の中で不安や孤独と闘っていた】【父親の役割を模索する】【妻に感謝しながら父親としてできることはやっている】【子どもの命と将来のことを考えると不安がつきない】の4カテゴリーが抽出された。

母親と父親では、子どもの障害受容の時期が異なっているため、その時期に沿った支援が重要である。また、子どもの成長を実感できることは障害受容の過程をたどる上で重要となるため、子どもの成長に応じ

た支援が受けられるよう周囲の理解および医療福祉制度の充実が望まれる。

睡眠の実態と育児ストレス

睡眠の実態は、(1)の健常児を育てる母親と有意差は認めなかった。睡眠の中断は全ての母親に認めた。

疲労感とストレス度は、母児共に就寝前から起床後へ減少傾向にあり、睡眠により疲労感やストレス度は改善されていた。睡眠の確保によりストレスの改善が認められていた。(3)比較検討から考える重症心身障害児を育てる母親および父親への支援内容

重症心身障害児の主な養育者である母親の睡眠に影響を及ぼす要因は、健常児においても重症心身障害児においても、睡眠を中断する事由の有無に影響を受けていた。母親の睡眠を確保するための対応が課題である。父親を含め家族の協力のほか、利用できる医療福祉制度の充実が望まれる。また、母親と父親では、子どもの障害受容の時期が異なっているため、その時期に沿った支援が重要である。対象数の集積を行い、更なる検討を続けていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

芳賀亜紀子、今村美羽、大石まりえ、坂口けさみ、徳武千足、米山美希、鈴木敦子、金井誠、市川元基、大平雅美：全国自治体のホームページ調査による父子手帳の実態と望ましいあり方の検討．長野県母子衛生学会誌、査読有、18巻.5-14、2016。
芳賀亜紀子、遠山京子、徳武千足、米山美希、坂口けさみ、金井誠、市川元基、大平雅美：在宅で重症心身障害児を育てる両親の障害受容から考える養育に対する思い．長野県母子衛生学会誌、査読有、17巻.8-17、2015。

村田諒、佐野紫織、児玉千恵、田中さゆり、坂口けさみ、芳賀亜紀子、徳武千足、米山美希、金井誠、市川元基、大平雅美：大学生の生活と対人関係および恋愛・結婚に対する意識について．長野県母子衛生学会誌、査読有、17巻.18-25、2015。

徳武千足、坂口けさみ、芳賀亜紀子、近藤里栄、大平雅美、金井誠、市川元基、小林明日香、小木曾綾菜、嵯山史織：父親の育児家事行動の実態と育児意識および育児参加を促進する要因について．長野県母子衛生学会誌、査読有、16巻.40-48、2014。

徳武千足、坂口けさみ、芳賀亜紀子、金井誠、市川元基、大平雅美、上條陽子：妊婦への足浴が自律神経機能および心理面に及ぼす影響．長野県母子衛生学会誌、査読有、16巻.31-39、2014。

芳賀亜紀子、徳武千足、近藤里栄、中村紗矢香、鈴木敦子、大平雅美、市川元基、金井誠、坂口けさみ：産後1カ月時の母乳育児の確立と基礎的・産科学的要因および母

乳育児ケアとの関連性. 母性衛生、査読有、54 巻 1 号.101-109、2013.

[学会発表](計 9 件)

芳賀亜紀子、堀口奈緒子、大澤あすな、西小野皐月、徳武千足、坂口けさみ、米山美希、鈴木敦子、金井誠、市川元基、大平雅美：保育園児を育てる母親の睡眠に影響を及ぼす要因についての検討. 2015.11.14. 第 18 回長野県母子衛生学会学術講演会、長野県松本市信州大学.

徳武千足、坂口けさみ、芳賀亜紀子、米山美希、鈴木敦子、小木曾綾菜、小林明日香、原ゆかり、宮本希美、市川元基、金井誠、大平雅美：父親及び母親への子育て支援教育プログラムによる育児への意識や行動の変化. 2015.11.14. 第 18 回長野県母子衛生学会学術講演会、長野県松本市信州大学.

今村美羽、濱口真衣、大石まりえ、石田茉莉絵、坂口けさみ、芳賀亜紀子、徳武千足、米山美希、鈴木敦子、金井誠、市川元基、大平雅美：全国自治体のホームページ調査による父子手帳の実態と望ましいあり方の検討. 2015.11.14. 第 18 回長野県母子衛生学会学術講演会、長野県松本市信州大学.

芳賀亜紀子、堀口奈緒子、大澤あすな、西小野皐月、徳武千足、坂口けさみ、米山美希、鈴木敦子、金井誠、市川元基、大平雅美：保育園児と母親の睡眠の実態および育児ストレスに関する研究～子どもの年齢および人数による比較検討～. 2015.10.16-17. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会、岩手県盛岡市 アイーナ/マリオス.

徳武千足、坂口けさみ、芳賀亜紀子、米山美希、鈴木敦子、原ゆかり、小林明日香、小木曾綾菜、金井誠、市川元基、大平雅美：妊娠期からの子育て支援プログラムによる父親及び母親の育児への意識や行動の変化. 2015.10.16-17. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会、岩手県盛岡市 アイーナ/マリオス.

Akiko Haga, Chitaru Tokutake, Kesami Sakaguchi, Miki Yoneyama, Atsuko Suzuki, Masayoshi Oohira, Motoki Ichikawa, Makoto Kanai : Heart rate variability analysis of term infants on early skin-to-skin contact . 2015.7.20-22. ICM Asia Pacific Regional Conference 2015、神奈川県横浜市パシフィコ横浜.

芳賀亜紀子、山部美和子、松永愛美、西田安奈、徳武千足、米山美希、坂口けさみ、金井誠：幼児と母親の睡眠の実態と育児ストレスに関する研究. 2014.9.13-14. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会、千葉県千葉市幕張メッセ.

芳賀亜紀子、小川真未、塚野未来、遠山京

子、徳武千足、近藤里栄、渡邊淳子、坂口けさみ、金井誠：在宅療養中の重症心身障害児をもつ両親の育児の実態と意思. 2013.11.9. 第 16 回長野県母子衛生学会学術講演会、長野県松本市信州大学.

芳賀亜紀子、小川真未、遠山京子、徳武千足、近藤里栄、渡邊淳子、坂口けさみ、金井誠：在宅で重症心身障害児を育てる母親および父親の障害受容と養育に対する意思. 2013.10.4-5. 第 54 回日本母性衛生学会学術集会、埼玉県さいたま市大宮ソニックシティ.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芳賀 亜紀子 (HAGA Akiko)
信州大学・学術研究院保健学系・講師
研究者番号：10436892

(2) 研究分担者：なし

(3) 連携研究者：なし

(4) 研究協力者

坂口 けさみ (SAKAGUCHI Kesami)
信州大学・学術研究院保健学系・教授
研究者番号：20215619

徳武 千足 (TOKUTAKE Chitaru)
信州大学・学術研究院保健学系・講師
研究者番号：00464090

牧内 明子 (MAKIUCHI Akiko)
長野県立こども病院・看護部・看護師長